

図書館だより

金沢市立朝日小学校図書館
2014年 1月



2014年は 駿馬 (しゅんめ) のように

午(うま)年がスタートしました。元旦に届いた年賀状には、馬をデザインしたものが多かったのではないのでしょうか。西本零央さんと竹山前さんが(午年で)年男ですね。そこで、十二支と干支について図書館の本から簡単に紹介します。

〈十二支ってどんなもの?〉

十二支は、むかし中国で考えられたものです。もともとは数を示す言葉でしたが、やがて月に使われるようになり、その後、おぼえやすいように身近な動物が当てはめられ、こよみや行事とともに日本に伝わってきました。

正確にいうと十二支は『干支(えと)』ではありません。

中国から伝わった十干(じっかん)に十二支を組み合わせて『干支』といいます。

たとえば、「丙午(ひのえうま)の年」や「今日は甲子(きのえね)の日」のようにいいます。

このような古いしきたりや知恵とともに、新しい知識も図書館を活用して自分のものにしてください。

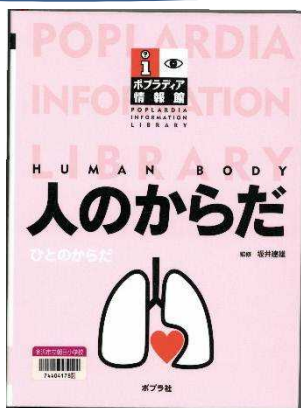


1月のおすすめ

読書テーマは『体』



2年生の教科書
に出ています。



ポプラディア情報館

人のからだ

(ポプラ社)

人の体について、この1きつですべてがわかります。重くて大きい本ですが、一度手にとって読んでみてください。

今の季節だったら、7章 免疫のしくみと免疫細胞(154~158ページ)がおすすめです。インフルエンザを予防するためにも自分の体について知ることは大切です。ただ残念なのは、この本は持ち出し禁止なのです。図書室で読んでください。

みつけようかぐ

ねむりのはなし ポール・シャワース・作 (福音館書店)

人間にも どうぶつにも とてもたいせつな「ねむり」についてのお話です。頭の中には、脳があります。脳は、体をしずかにしていても休むことができません。脳はおきているあいだ いつもずーっと動いています。でも、脳も休まなくてはなりません。脳が休むことができるのは、ねているあいだです。「ねむらないとどうなるのかな?」ぜひ答えを本から見つけてください。



保健室で見る

感染症の本「インフルエンザ」編 近藤 とも子・著 (国土社)

バイキン(ウイルス)は弱ったからだが大好き。油断をすると、どんどん進入してきます。この本には、バイキン(ウイルス)に勝つ3か条が出ています。

その①十分な睡眠 リンパ球(抵抗力)は、寝ている間に作られる。

その②十分な栄養 十分な栄養でじょうぶな体づくり

その③予防注射 あらかじめ敵のしくみを学ぶことで、すばやい抵抗力を獲得。